

教 科	数 学	科 目	数 学 探 究
履修条件 対象生徒	選択履修（学校設定科目） デザイン科 3 学年		
学習目標	数学I、数学 A の内容について繰り返し演習を行うことによって、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、身近な事柄の問題解決のための方法として活用できる能力を身に付ける。		
学習方法	〔授業〕 授業を集中して受けることが大切である。授業では、別解や発展させた内容の追加説明の他、数学が生活の中でどのように使われているかなど、多くの重要事項が説明される。授業を真剣に聞き、理解できない所はその日のうちに質問し解決しよう。 〔家庭学習〕 その日に習った内容を、その日のうちに、本当に理解できているかを確認することが大切である。日々の復習を通じて「分かる」状態から「解ける」状態に昇華させよう。		
学習計画 と ね ら い	<年間を通して> 数学I 1 式の計算 2 実数 3 1 次不等式 4 集合と論証 5 2 次関数とそのグラフ 6 方程式・不等式 7 三角比 8 三角比と図形の計量 9 データの整理 10 データの分析 数学A 11 場合の数 12 確率 13 三角形の性質 14 円の性質 15 空間図形 生活の中の数学		
	○数学 I ・ A の基本的内容を復習する。 ○ 2 次関数、方程式、不等式、確率について総合問題を解き、応用力を身に付ける。 ○各分野の基礎・基本を繰り返し演習することによって、さまざまな方式の出題に慣れるとともに、知識の定着を図る。 ○就職試験の過去の問題を解き、数学 I ・ A がどのような形で出題されるかを知り、慣れる。 ○生活の中で数学がどのように使われているか、体験したり、調べたりする。		
評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 基本的な概念や法則を理解している。 ・ 数学的に表現や処理をする技能を身に付けている。	・ 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的に表現する力を身に付けている。	・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養おうとしている。
評価方法	①定期考査では問題を観点別に分類し、評価する。 ②授業態度においては、出席状況、演習問題の板書等を評価に反映させる。 ③課題研究では、レポートや発表の内容を評価する。 以上を総合的に判断して評価する。		